

2021年度 入学試験 学特入試 I

国語

※問題は1ページから12ページまであります。

※マークシートに、受験番号・氏名・性別・科目を正しく記入してください。

※解答は、すべてマークシートに記入してください。

※書き誤りをしたときは、きれいに消してから、新しい解答を書いてください。

学 特 入 試 I	受 験 番 号		氏 名	
-----------------------	------------------	--	--------	--

□ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「からだ」と「こころ」の関係について、身体のカン点から考えた人がいます。先に述べたフランスの学者メルロ・ポンティという人です。

彼は私たちにとっての世界は、「身体として世界に住み込む」という形でつくられていると考えています。

A 「からだ」が世界に住み込むとは、どういうことでしょうか。

西洋の伝統では意識や精神を重んじます。これを推し進めると、自分で自分を意識することができると考えます。デカルトのいう「我思うゆえに我あり」がその典型です。

デカルトは、すべてを疑うことから始めました。するとすべてが疑わしい。B I 、今こうして疑っている自分は確かに存在する。したがって、考える意識があるからこそ、自分は存在している、という考え方です。

でもいくら「自分が存在する」と思つても、実際には思うだけでは存在できません。意識さえあれば存在できるのかといえば、そんなことはなくて、身体つまり「からだ」がなければ存在することはできません。

「からだ」があるからこそ「ここに存在する」のだし、「からだ」があるから世界が見えてくる、というのがメルロ・ポンティの考え方です。彼は「われわれの身体が空間のなかにあるとか、時間のなかにあるとかと、表現してはならない。われわれの身体は、空間や時間に住み込むのである」(『知覚の現象学1』みすず書房)と言っています。

たとえばボールが飛んできたとします。私たちは、瞬間に手をさつと動かしてキャッチします。「この角度でこうやって手を出そう」など

と計算するのではなく、瞬間的に手が出ます。

これはふだんからキヤツチボールをすることで、ボールが来たら手を出して受け取るというパターンを「からだ」が獲得しているからです。それが、身体が空間や時間に住み込む感覚です。

そのシヨウ抛に一度身につけた技は何年たつても変わりません。私は先日、久しぶりに大学のテニスクラブの友人たちとテニスをする機会がありました。

みんな二〇年以上たっているというのに、全員当時と打ち方が同じでした。「全然変わらないね」とみんなで笑ったのですが、それはテニスのフォームが「からだ」の習慣として獲得されているからです。同窓会に行くと、みんなしゃべり方がぜんぜん変わっていなかつたり、笑い方が同じで懐かしいのですが、それも「からだ」の習慣です。

つまり身体パターンが積み重なっていて、C II に埋め込まれてしまっているのが私たちの「からだ」です。

そういうものがむしろ自分なのではないか、と考えると、私たちは理性や意識としてではなく、身体としてこの世界に存在しているととらえたほうがいいでしょう。

つまり、自分というのは「からだ」に埋め込まれた習慣の堆積です。習慣のかたまりこそが「からだ」であり、その「からだ」を通して世界と関わっているのです。

そしてその獲得した身体パターンを組み換えたり、C コウ新したりして、私たちは世界を広げていきます。

だから反復練習して、身体を習慣化することはとても大事です。部活はそういうことを練習する行為ですから、ちゃんとやったほうがいいと

思います。

そうやつて「からだ」に埋め込まれた習慣がたくさんあればあるほど、堆積は大きくなつていくので、「自分」という存在も大きくなつていきます。

メルロ＝ポンティとはまた違つた角度から、「からだ」と「こころ」について考えた人がいます。ドイツの哲学者ニーチェです。

彼は西洋の思想家には珍しく、「身体」と「理性」の一致を説いた人です。〈a〉

ニーチエによると、身体は精神の理性よりもっと大きな理性だそうです。ニーチエに「身体は大きな理性だ！」といわれると、「そうかもしれない」と思つてしまふから不思議です。〈b〉

確かに言われてみれば、ちょっと散歩したくなるのも広くいえばひとつのは理性だし、退屈な話を聞くと眠くなるのも、自然な心の動きです。

動物は明らかに身体と理性が一致した存在です。彼らは退屈したり、ストレスを感じると、身体を伸ばしてストレッチしたり、走り回つて解

D
シヨウします。〈c〉

そう考へると、「からだ」が世界に住み込めていない人は、世界との違和感がひじょうにあるわけです。その結果、他者が遠く感じられてしまう。ひどくなると自分自身とも離れてしまふ感覺におちいつてしまします。〈d〉

III

人間関係や社会との関わりも「からだ」を介して行うことが重要なのです。くり返すようですが、私がインターネット社会を危惧するのは、「からだ」で世界と関わり、世界に住み込む感覺が足りな

くなるからです。

その結果、「からだ」の**E**ヒ重が軽くなり、自分の存在自体が薄っぺらになつてきます。

そななないためには、「からだ」ごと関わつていく経験が大切です。「からだ」ごとというのは、何も運動することばかりではありません。

本を読むのでも、**F**長ヘンの歯ごたえのある作品を読むと、それだけ苦労するため、「からだ」ごと本の世界に入り込んでいく感じになります。

アニメばかり見たり、ネットでの情報検索だけですごしてしまふと、「からだ」を使わないので、手応えがありません。

人間関係は、からだが基本です。友だちと夜通し話すとか、一緒に旅行に行くといった「からだ」ごとの関係をつくれば、人間関係が自然にできる「からだ」になつてきます。でも「からだ」ごとの関わり方をしていないと、この世界になじんだ感があまりありません。すると学校や会社にいても、だんだんつらくなつてきます。

もちろん山に登つたり、走つたり、ガーデニングをしたり、絵を描いたり、「からだ」そのものを使うことで、**H**世界と関わり、自分自身を取り戻していくことができます。とにかく「からだ」ごと、「からだ」を介して世界と関わることが大切です。

(齊藤孝「からだ上手　こころ上手」による)

(注) *デカルト＝フランスの哲学者。

*堆積＝積み重なつたもの。

*危惧する＝あやぶみ、おそれること。

(1)

二重傍線部 A ~ F のカタカナと同じ漢字があてはまるものを、次の
 ① ~ ④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

D

解シヨウ

4

A カン点

1

- ① 疾カン
- ② カン測
- ③ カン燥
- ④ カン没

B シヨウ拠

2

- ① シヨウ待
- ② シヨウ早
- ③ シヨウ像
- ④ 実シヨウ

C コウ新

3

- ④ コウ能
- ③ 近コウ
- ② コウ撃
- ① コウ衣

E

ヒ重

5

- ④ シヨウ火
- ③ シヨウ罰
- ② シヨウ軍
- ① シヨウ知

F

長ヘン

6

- ④ ヘン集
- ③ ヘン言
- ② ヘン底
- ① ヘン路

(2) 傍線部ア「『からだ』が世界に住み込む」とあります。それはどういうことを表していますか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

□ 7

- ① 人間は瞬間的な動作を多く身につけることで存在できるのであって、高度な理性を持つているだけでは不十分であるということ。
- ② 人間は意識だけでも存在できるが、様々な身体パターンの積み重ねによって、それを強固なものにしているということ。
- ③ 人間というのは種々の習慣を身につけることで自由に存在することができ、理性や意識はその存在を束縛するものだということ。
- ④ 人間という存在は、理性や意識だけによってあるわけではなく、様々な身体のパターンの積み重ねによつてあるのだということ。

(3) 本文中の空欄 □ I □ III に入る語として最も適当なものを、次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

・ 空欄 I

□ 8

・ 空欄 III

□ 9

- ① なぜなら
- ② ですから
- ③ そのうえ
- ④ ところで
- ⑤ しかし
- ⑥ では

(4) 傍線部イ「われわれの身体が空間のなかにあるとか、時間のなかに

あるとかと、表現してはならない」とあります。そのように考へる

理由として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番

号をマークしなさい。

10

- ① 人間の身体は空間や時間を自分の外部のものとして捉えるべきで
はなく、その内側に入り込んでいる存在だと認識すべきだから。

- ② 人間の身体は空間や時間とは関係がないところで、各人が個々に
持つ、自らの内部の経験則に従つて行動するものであるから。

- ③ 人間の身体は空間や時間を超越できるものではなく、その中で肉
体的存在として生き続けているのが真実であると言えるから。

- ④ 人間の身体は空間や時間によつて縛られており、そこで生まれる
自分の身体上の動きを繰り返しながら生きるものだから。

(5) 本文中の□に入る語として最も適当なものを、次の①～

④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- ① 意識的 ② 潜在的 ③ 先天的 ④ 意図的

(6) 次の一文を本文中に補う場合、〈a〉～〈d〉の中で最も適当な場所
はどこですか。次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしな
さい。

12

〈動物は身体としてこの世界に存在しているといつてもいいでしょう。〉

- ① 〈a〉 ② 〈b〉 ③ 〈c〉 ④ 〈d〉

(7) 傍線部ウ 「『からだ』が世界に住み込めていない人は、世界との違和感がひじょうにある」とあります、その理由の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

い。
13

- ① 身体の存在を意識化できない人は、自分自身と自分の周囲の世界との間に、明確な身体上のつながりを持つことができないから。
- ② 現実の世界において自分自身の身体を快適な状態に保つことができずになると、退屈やストレスを感じることが多くなるから。
- ③ 身体が持つ理性は精神が持つ理性よりも大きいので、現実の世界においては、身体の理性からの要求の方をより強く感じるから。
- ④ 人間関係や社会との関係というのは、実際的には身体を通じて行われるもので、身体を軽視する人は存在を主張できないから。

(8) 傍線部エ 「世界と関わり、自分自身を取り戻していくこと」に関する筆者の考え方として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- ① 自分という存在をしっかりと感じ取るために、運動を繰り返すという経験を重ねることを優先させて、身体上の意識を持つべきだ。
- ② 簡便な方法で世界と関係しようと/orするのではなくて、より厳しく困難な方法によって、世界の深い部分と関わろうとするべきだ。
- ③ 理性や意識ばかりによって行うのではなく、自分の身体そのものを使うことによって、直接的に深く関係することが重要である。
- ④ 意識に関わる部分は脇に置いて、現実の世界との肉体的な接触の機会を増やすことで、実際の経験の量を増加させるべきである。

(9) 本文の展開の仕方として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- ① 主張の内容をよりよく伝えるために、わかりやすい具体例を時にさしはさむことで、読者の理解を助けている。
- ② 前半の部分と後半の部分で対照的な内容を並べることで、二つの思想の本質的な理解が進むように工夫している。
- ③ 西洋の代表的な思想について解説した後、最後の部分で、現代社会に必要だと思われる個人的な提言を述べている。
- ④ 初めから最後まで一貫した見解を示しており、それについて少しずつ段階を踏みながらわかりやすく書いている。

(10) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- ① インターネットに代表される現代社会では、人間の身体の存在があまりに軽視されており、それは社会と個人との断絶につながりかねないので、我々は身体による関わり方にについて考えるべきである。
- ② インターネットによる情報検索に頼っていれば身体を意識しなくても活動することは可能であるが、人間の存在とは身体によるので、身体が不在である活動は人間的な活動だとは言えないものである。
- ③ インターネット社会に対して危惧されることは人間の身体の不在であって、より大きな理性を持つ身体を活用する方法を持つことができれば、さらに進んだ社会を手に入れることができるはずである。
- ④ インターネットにおいては身体が軽視される余り自分自身の存在も希薄になりやすく、それを防ぐために、今一度身体のあり方について考え、より健全で自分らしい身体を持つ努力をするべきである。

二 次の古文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

(1) 傍線部ア「さながら捨つべきなり」とあります。その理由として

最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマーク

しなさい。

17

大事を思ひ立たむ人は、避りがたく、心にかかることの本意を遂げ
ずしてア_アさながら捨つべきなり。「しばし、この事はてて」、「おなじくはか

のこと沙汰しおきて」、「しかしかの事、人の嘲やあらむ、行末難なくし_し」
たためまうけて」、「年来もあればこそあれ、そのこと待たむ、程あらじ。

*物さわがしからぬやうに「など思はむには、えさらぬことのみとどかさ
なりて、ことの尽くる限もなく、思ひ立つ日もあるべからず。おほやう
人を見るに、少し心あるきはは、皆このあらましにてぞ一期はすぐめる。

近き火などに逃ぐる人は、しばしとやいふ。身を助けむとすれば、恥
をも顧みず、財をも捨ててのがれざるぞかし。命は人を待つものかは。
無常の来ることは、水火の攻むるよりも速かに、のがれがたきものを、
工_工すてざらむや。

(「徒然草」による)

(注) *沙汰しおきて=きまりをつけておいて。

*したためまうけて=準備して。

*年来もあればこそあれ=この年ごろこうして暮らしてきたの

だから。

*程あらじ=大した時間はかかるまい。

*物さわがしからぬやうに=慌てないように注意しよう。

*えさらぬこと=どうにも避けられないこと。

*一期はすぐめる=一生は終わってしまうようだ。

*無常=死。

8

(2) 波線部a～dの中で、意味・用法が他の三つと異なるものを、次の

①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① a 「ことの尽くる」 ② b 「無常の来る」
③ c 「水火の攻むる」 ④ d 「君の恩」
- ① 人に迷惑をかけまいとしても、到底できはしないから。
② 色々なことにかまけていると、一生が過ぎてしまうから。
③ 何であろうとも、高い価値があることとは言えないから。
④ 早く始めないと、いずれ誰かに邪魔されてしまうから。

(3) 傍線部イ「思ひ立つ日」とはどうな日か。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① いよいよ思うことを始めようとする日。
② すべてに始末をつけて旅立つ日。

③ 面倒なことをすべて片づけようとする日。

④ 世間の人々の一生が終わるうとする日。

(4) 傍線部「のがれさるぞかし」の動作の主体を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① 耾をかいた人。
- ② 近所に住む人。
- ③ 火事にあつた人。
- ④ 財産を持つ人。

(5)

傍線部「すてざらむや」の意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 仏道に入ろうとするならば、自分の死が訪れるることを恐れるべきではない。
- ② 仏道の修行を始めるのであれば、すべてを捨ててすぐに始めるべきである。
- ③ 仏道に入る者はあらゆる人との縁を断ち、孤独な思いに耐えねばならない。
- ④ 仏道の修行は財産や年齢に関係せず、誰でも平等に始められるべきである。

(6) 本文中で述べられている内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

- ① 『平家物語』
- ② 『源氏物語』
- ③ 『奥の細道』
- ④ 『万葉集』

23

(7) 本作品〔徒然草〕は鎌倉時代に成立した隨筆です。この作品と同じく鎌倉時代に成立した作品として適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

三 次の漢文を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

司馬牛問君子曰、子不憂。君子曰、子不懼。

(1) 傍線部①「司馬牛問君子」が「司馬牛君子を問ふ」という書き下し文になるように返り点をつけるとき、次のA～Dに適するものを、それぞれあとの①～⑧の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を何度も選んでもよい)

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

不懼、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

不懼、子不懼。君子曰、子不懼。

(「論語」による)

一
二
三
上
下
返り点なし

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

司馬牛問君子曰、子不懼。君子曰、子不懼。

(2) 傍線部②「不憂不懼」とありますが、これについての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

28

- ① 君子の内面のあり方について説明している。
- ② 君子になれる条件について宣言している。
- ③ 君子が持っている弱点を指摘している。
- ④ 君子として気をつけるべきことを教えてている。

(3) 傍線部③「省」とあります。文章中と同じ意味で「省」が用いら
れている熟語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、
その番号をマークしなさい。

29

- ① 帰省 ② 本省
③ 自省 ④ 省略

(4)

傍線部④「不疚」の口語訳として最も適当なものを、次の①～④の中
から一つ選び、その番号をマークしなさい。

30

- ① やましいところがあつたとしても
② やましくないこともないが
③ やましくないかもしれないが
④ やましいところがなければ

(5)

この文章が伝えようとしていることとして最も適当なものを、次の
①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

31

四 次の(1)～(4)の部首に分類される漢字として適当でないものを、あ
との①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさ
い。

32

- (1) もんがまえ
(2) くちへん

- 閑 問 閉 開

- (1) 鳴 吸
(2) うかんむり
(3) 閑 問 閉 開

34

35

33

- (1) 鳴 吸
(2) くちへん
(3) うかんむり
(4) なべぶた

- 亭 夜 交 京

- ① 君子の行動はすべて正しいので、悔いることがない。
② 君子はその心の中に、思い煩うことを持たない。
③ 君子はその教えで、人々の心配をすべて消し去る。
④ 君子の思いは人の感情を超えることが難しい。

五

次の(1)～(4)の意味を持つ故事成語として最も適当なものを、あと
の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 文章を練つてよく考えること。

36

(2) 目的達成のために、長い間の苦労にたえること。

37

(3) 自らを窮地に追い込んで、最大限に力を出すこと。

38

(4) 目先の違いにとらわれて、結果が同じになることに気がつかないこ
と。

39

- ① 井の中の蛙
- ② 臥薪嘗胆
- ③ 画竜点睛
- ④ 杞憂
- ⑤ 四面楚歌
- ⑥ 推敲
- ⑦ 朝三暮四
- ⑧ 背水の陣

六

次の傍線部の①～⑧の中から、(1)副詞・(2)連体詞・(3)形容動詞・
(4)感動詞をそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

・さあ、みんなで頑張つて掃除をすませよう。

・昨日のパーティーはとても楽しいものだつた。

・そこにあるぼくのバッグを取つてください。

・太陽が海の向こうからゆつくり昇つて来る。

・夏の暑い日に、大きな入道雲がわき立つた。

・あなたが生まれた町はどこでしようか。

・彼はアメリカ人だが、日本語をきれいに話せる。

・先生はクラスに向かつて色々と話されました。

(1) 副詞

(2) 連体詞

(3) 形容動詞

(4) 感動詞

43

42

41

40

